

静岡県内工事をめぐる 現状と今後

リニア新幹線を考える静岡県民ネットワーク

共同代表 林 克

リニアで県民の声を代弁してきた 川勝知事が辞職

- 辞任の理由として
- ①JR東海がリニア中央新幹線の2027年開業を断念し「一区切り」ついた。「(JR東海は) 事業計画を根本的に見直すしかなかった」
- ②職業差別とも取れる不適切な発言
- 当初6月議会でとっていた辞職願を4月10日に提出、5月9日告示、5月26日投票で知事選が行われることに。

川勝知事の静岡県のリニア問題に対する評価

運動団体

- 1) 2013年9月に大井川の水が「毎秒2トン失われること」を明示した環境影響評価準備書に対して、2014年3月、環境アセスメントの正式な知事意見として「工事湧水の全量戻し」を主張し、それがその後のJR東海等との対話の主テーマとなったこと
- 2) 静岡県環境保全連絡会議に地質構造・水資源と生物多様性の二つの専門部会を立ち上げ、科学的・工学的検証によってJR東海環境アセスメントの欠陥を指摘してきたこと

リニア静岡県内工事の三つの論点

- ①大井川の水減少問題

県は、JR東海の提示した「田代ダム案」のスキーム了解したが、具体的にはこれからの議論。私たちはとても成り立たないと公開質問状。

- ②南アルプスの環境問題

国の有識者会議の報告書は枠組みを示しただけ。どこの何をどう守るか？これからの議論

- ③トンネル工事の残土問題

後楽園ドーム3杯分の残土。土石流で生態系、中下流の濁水、中下流の堆砂などの危険。条例違反かつ水源地に要対策土

静岡工区

トンネル湧水のポンプアップ（導水路トンネルで戻せない期間は斜坑を通じて大井川へ戻す）

期間

山梨県側からの先進坑が県境を越え、静岡県側の先進坑に繋がるまでの期間（約10か月想定）

先進坑貫通後 ~ 将来にわたって

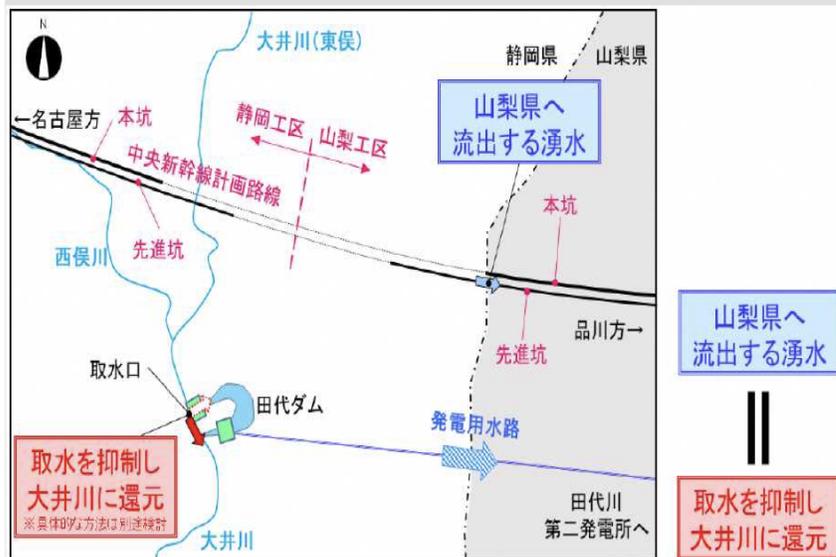
保全策

田代ダム取水抑制案

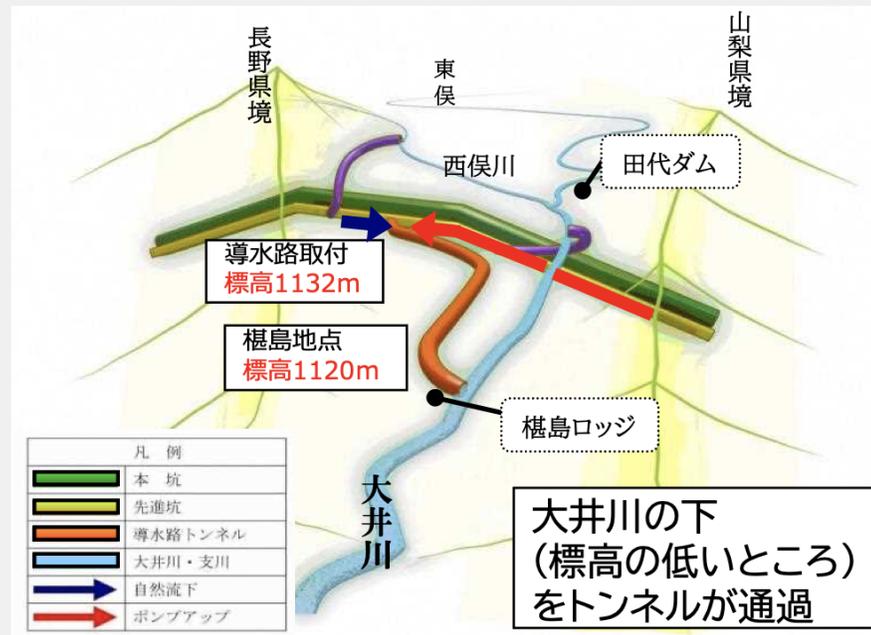
トンネル湧水のポンプアップ

静岡県内の山梨工区

具体的措置

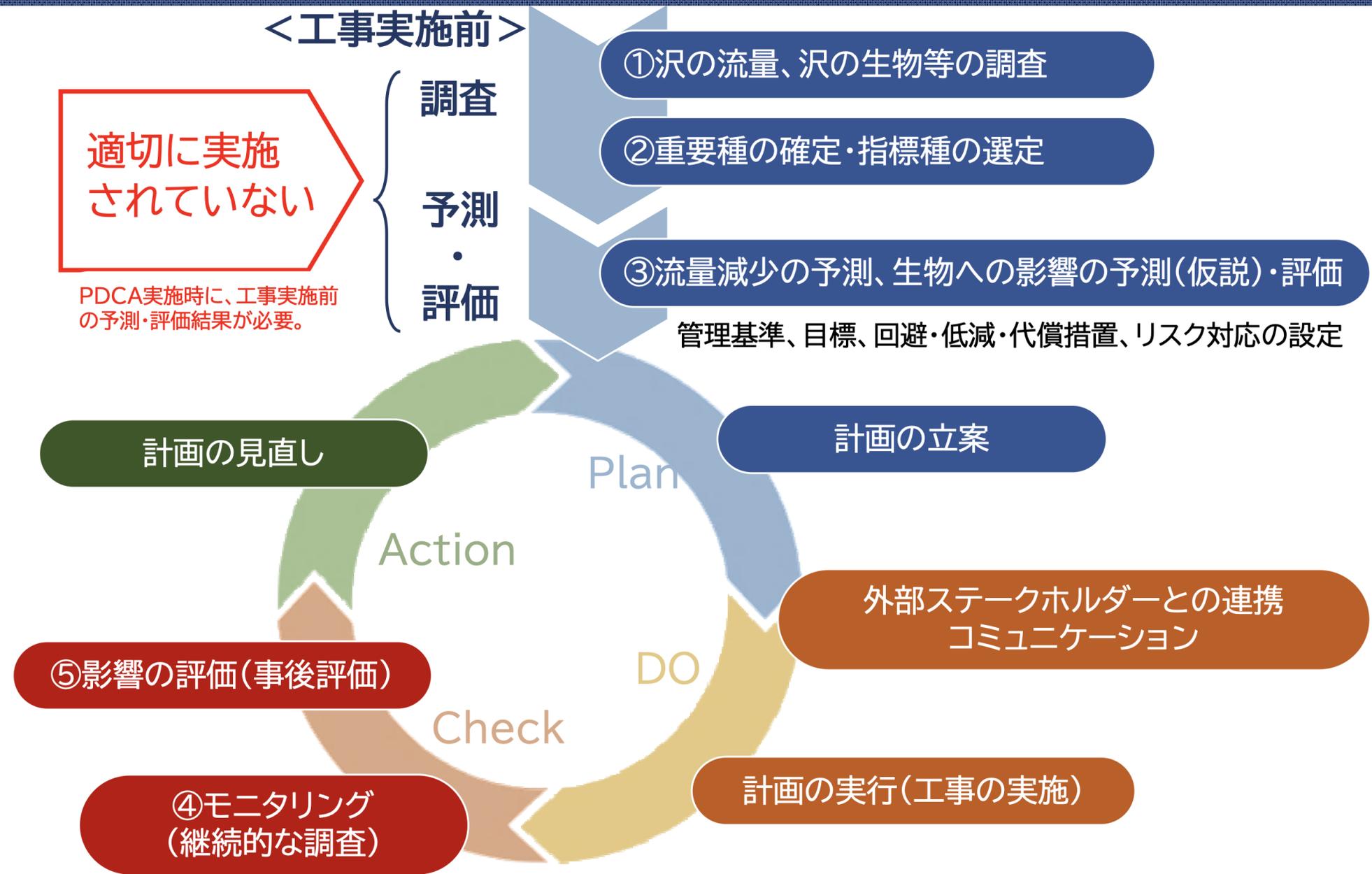


静岡県から山梨県側へ流出するトンネル湧水量（県外流出）と同量を、田代ダムにおいて**取水抑制**し、大井川の流量を確保



トンネル勾配にそって県外に向かって流れてしまうトンネル湧水を、**ポンプアップ**し**導水路トンネル**を通して榎島地点から大井川へ戻す

- 1 (1) 順応的管理、生物への影響の予測・評価
- 1 (2) 沢の上流域の生物調査、重要種の確定・指標種の選定

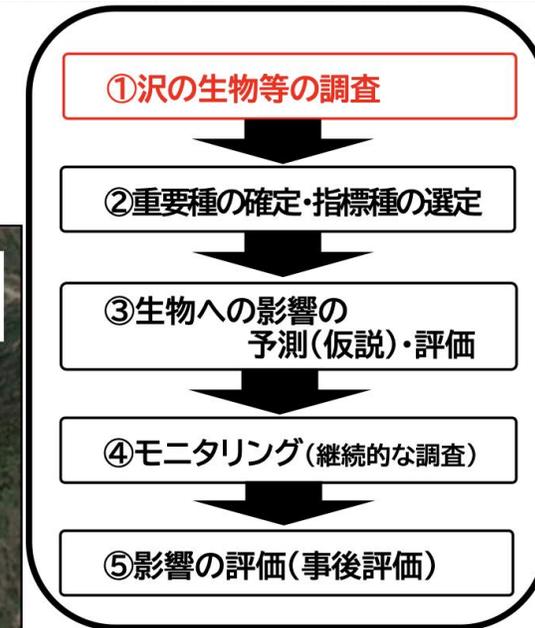


1 (1) 順応的管理、生物への影響の予測・評価

1 (2) 沢の上流域の生物調査、重要種の確定・指標種の選定

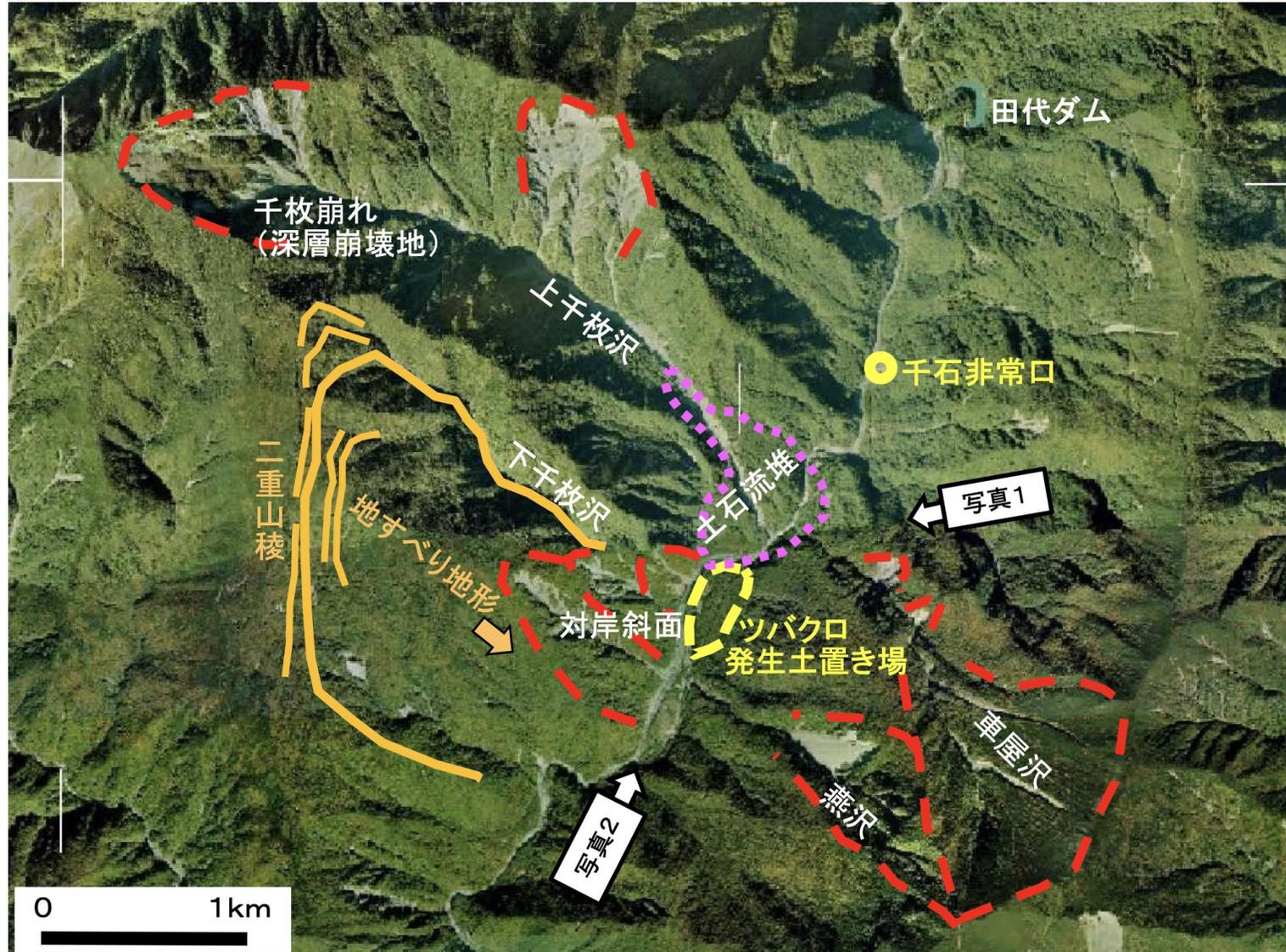
① 沢の生物等の調査

- ・ 沢の生態系の現況を把握するため、沢の生物等を調査する。
(上流域も調査しないと、沢の生態系の現況が正しく把握できない。)



1 (4) ツバクロ発生土置き場(広域的な複合リスク)

- ・ ツバクロ発生土置き場の位置選定や対策検討…南アルプスの崩れやすい地質構造を踏まえた上で、同時多発的な土石流等の広域的な複合リスクを想定した検討



リニア関係8団体で声明 4/12 「川勝知事のリニア政策の継承を」

知事の取り組み評価
環境保全継承を期待

市民8団体

市民団体「リニア新幹線
を考える県民ネットワーク」など8団体は12日、川
勝平太知事の辞意表明に対
する声明を発表した。川勝

知事のリニア中央新幹線問
題への取り組みを評価した
上で、次期知事にも水資源
と生物の保全を重視する姿
勢の継承を期待した。

8団体は、川勝知事が「ト
ンネル湧水の全量戻し」を
主張してJR東海との対話
のテーマとした点、水資源
と生物多様性の二つの専門
部会を立ち上げてJRに環
境保全の課題を指摘した点
を評価。「『リニアより水
と環境が優先』という川勝
路線の継承を求めたい」と
訴えた。

川勝知事は辞職理由にリ
ニア問題が「大きな区切り
を迎えた」ことを挙げたが、
県庁で記者会見した県民ネ
ットワークの林克共同代表
は「真意を確認しないと評
価は難しい。課題はまだ残
されている」と述べた。知
事選については「各候補の
考えを聞きたい」と注視す
る意向を示した。

- 川勝知事の①「全量戻し」を基軸に
JR東海と対話、②専門家会議で科学
的工学的に議論、を評価
- 新しい県政においても、「リニアよ
り水と環境が優先」という川勝路線
の継続とよりいっそうの発展が求め
られる。
- 引き続き水と環境を守る署名を推進
- 今後公開質問状を各候補に答えても
らう

川勝再出馬を求める署名

- 私たち8団体中「62万人運動」「市民ネット」が実施。
- 川勝知事は①環境アセスに歯止め、②川勝人格攻撃は地方自治を壊すを理由に再出馬の署名
- 具体的に川勝知事にも要請
- 今月末提出の予定

川勝氏再出馬求め 市民団体署名活動

静岡

市民団体の「南アルプスとリニアを考える市民ネットワーク静岡」と「大井川の水を守る62万人運動」は22日、辞職届を出した川勝平太知事に知事選への再出馬を求める署名活動を静岡市葵区の青葉シンボルロードで行った。

両団体は、リニア中央新幹線建設工事に伴う大井川の水問題に関する川勝知事のJR東海や国への厳しい姿勢を評価。既に立候補を表明している2氏について「リニアと環境保全の両立」と言っているが、具体策が

示されていない。(政策を)評価できない」として、川勝知事の再出馬を求めることにした。

関係者が22日午前川勝知事と面会して署名活動の実施を報告し、立候補を求めた。川勝知事は自身への評価に感謝を伝えたものの、出馬には否定的だったという。

署名は30日までインターネットでも受け付ける。集まった署名は川勝知事に届ける方針。



川勝平太知事の知事選への再出馬を求め、署名を集める市民団体関係者
11月22日午後、静岡市葵区

県知事選の構図固まる

- 大村氏 リニア推進、東海道新幹線の利便性を高める
国との連携が重要
- 鈴木氏 リニア推進、環境との両立、川勝県政の課題解決し前進
- 森氏 リニア反対、南アルプスの自然を壊し、命の水が枯渇。大量電気消費は時代に逆行

令和6年(2024年)4月26日(金曜日)

知事選 2024

三つどもえ 構図固まる

投開票まで1カ月 中央政界も注目

項目	大村慎一氏	鈴木康友氏	森大介氏
リニア中央新幹線	推進のため、対話で課題解決図る	事業を進め、生態系との両立を目指す	反対
浜松市新野球場整備	県3案前提に推進	開放型ドームが現実的	反対
浜岡原発再稼働	住民の安全優先	住民の安全優先	反対
最重要施策	防災・危機管理	産業振興	リニア・原発ストップ
川勝県政の継承	政策推進手法の抜本的見直し	すべてゼロベース	是々々々(リニア、原発は賛同)
キャッチフレーズ	対話と実行	やります!	国・大企業にモノを言える県政へ
主な推薦・支援団体	自民県連	連合静岡、立民、国民、県議定会派、ふじのくに県民クラブ	共産(公認)

知事選(5月9日告示、26日投開票)は投開票まで1カ月となり、新人による三つどもえの構図となることがほぼ固まった。既に立候補を表明している元副知事の大村慎一氏(60)無所属と前浜松市長の鈴木康友氏(66)同に加え、共産党県委員長の森大介氏(55)が25日、共産公認で出馬すると正式に表明した。与野党対決との見方もあり、解散総選挙を見据える中央政界からも注目される超短期決戦は、実質的な選挙戦に突入した。

● 関連記事5、9面へ

共産・森氏 出馬正式表明

大村、鈴木両氏はリニア中央新幹線整備事業と、浜松市の新野球場建設について推進の姿勢を示すが、森氏は反対を主張。大村、鈴木両氏は是非を明言していない。中部電力浜岡原発の再稼働も森氏は反対した。3事業で、大村、鈴木両氏との対立軸を明示し、受け皿に

遺族給

犯罪被害者支

大村、鈴木両氏は川勝平太知事の県政継承を否定している。森氏は25日に県庁で開いた記者会見で、リニア静岡工区の着工や原発再稼働を認めなかった川勝県

なることを目指す。

犯罪被害者給付制度に基づき被害者や遺族に支払われる給付金の大幅増額を検討している警察庁は25日、犯罪被害者等給付金支給法施

川勝後のリニア問題はどのようなのか？

- リニアはすんなりとは進まない。これまでの課題を行政として解決していく組織、体制がある。
- 一方、鈴木「課題がクリアになれば(工事を)認めていく」、大村「川勝県政の政策を進める手法は抜本的に見直さなければいけない」具体的に何を意味するかは今後の論戦。
- 新潟県の柏崎刈羽原発の検証委員会の事例。知事が替わると3つの検証委員会の委員を交代させ、総括委員会の委員長はじめすべての委員を再任せずそこで採択すべき検証報告がうやむやとなった。

まとめ

- 選挙の論戦に注目、公開質問状の記者会見で各候補リニア政策を深掘り。県民にわかりやすく宣伝。
- 残された課題や環境保全連絡会議の2つの専門部会などリニアをチェックする体制を尊重とする言質を取ることが大事。
- それらの課題がどうなるかで違うが、選挙後静岡県内の47項目中30項目の議論や田代ダム案の具体案などますます県民が関心を持って監視していくことが必要。